

2020/10/26

(うとQ世話し おかあちゃあん、こわいよお～、助けてえ～)

表の顔と裏の顔。二重人格。多重人格。

果ては「ジキル氏とハイド氏」に「怪人二十面相」

「いつもニコニコしている奴には気をつけろ。そういう奴ほど裏が怖い」

「貴様あ、見たな、俺の正体。生かしてはおけぬ。覚悟しろ」

等等など、おどろおどろしい言葉が並びます。

更には「風見鶏」「変節漢」に「機を見るに敏なり」とか。

要するに、その反対語として「常時一定」「終始一貫」「表裏一体」等が求められ、誠実なる事の証として重用されてきた様に思います。

確かに、それはそれなりに自分としても「誠に、御尤も(ごもつとも)」な事だとは思いますが、かくいう自分もそう努めては参りました。

しかし、最近コロナ禍の元、日々翻弄される生活を送る様になると、それらの価値観に対していささか疑問を抱く様になりました。

「そもそも人間というのは一つの顔(側面)だけなんだっけ？」

そうして

「喜怒哀楽、少なくとも四面ある筈なのに、なんで常時穏やかで涼しい顔、一つだけをいつもしていなくてはいけないんだっけ？」

と。

まあ「常時穏やかで涼しい顔」は悟達した阿闍梨様でもない限り無理そうなので、結果我々がどうするかといえば「不変的表情」即ち「無表情」「無反応」「無関心(見て見ぬ振り)」を装ってしまっている様な気がして参りました。

「いつも同じじゃなければいろいろ言われそうで怖いので、まずは何も出さないことにしておきます」

というところでしょうか。

そうして更に

「こうした変動期こそ、あわてず騒がず、常に落ち着きを持って冷静に」

等と尤もらしい事を言われると益々「喜怒哀楽」を出せなくなってしまい、更にさらさら上述の「三無間地獄」に陥り、その轍(わだち)から抜け出せなくなってしまっているような気がします。

なので、ここらで一つこう言ってみては如何でしょうか

「うっせえ、不安で、不安で仕方がねえんだ。怖くて、怖くてビビってえんだ。おかあちゃあん、こわいよお～、助けてえ～」

位の事は。

追記)

67歳、海千山千自営業のジジイが言う位ですから、特に学生さん等、お若い方は恥ずかし

がらずにいくらでもどうぞ。